

# おおだて 市立総合病院・市立扇田病院 病院だより 第26号

おおだて病院だよりは、  
市民・患者さんと  
市立総合病院・市立扇田病院を  
つなぐ広報誌です

2018.12

No.26

発行者：大館市病院事業管理者 佐々木睦男  
編集：大館市立総合病院 広報委員会  
住所：大館市豊町3-1(総合)  
大館市比内町扇田字本道端7-1(扇田)  
電話：0186-42-5370(総合) 0186-55-1255(扇田)  
URL：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>(総合)  
<http://www.oogita-hp.jp>(扇田)



## Future Doctor Seminar in 大館

「大館・北秋田地域医療推進学講座」の社会活動の一環として、次世代を担う高校生を対象に医師の仕事を知ってもらうため、「Future Doctor Seminar in 大館」を開催しました。写真は模擬手術の様子です。



市立総合病院  
院長  
よし 吉 原 秀 一

数多くの台風、大雨、地震が日本列島を襲い多くの被害をもたらした今年の夏も終わり、やっと穏やかな秋の日々を迎えたと思う間もなく寒い季節の到来です。総合病院も秋から少し体制が変わりました。平成30年10月1日より鹿角地区の産科医療が当院に集約され、お産の数が増えます。それに対応するため産婦人科医師、助産師が増員され、分娩室はじめ医療機器も増設し準備しております。鹿角地区の妊婦さんには病院が少し遠くなりご不便をおかけしますが、より多くのスタッフが皆さんの安全なお産に関わることができるようになります。これからも地域の産科医療の安全と安心のためにスタッフともども病院を運営していきたいと考えております。

さて、秋という季節は長く厳しい冬に向けて人も動物も準備をする季節です。収穫したばかりのおいしいものや、気候も穏やかとなり仕事も一段落します。秋の夜長も手伝い、つつい暴飲、暴食、運動不足になりがちです。食欲の秋を満喫してばかりだと不摂生に拍車がかかります。是非、雪が降る前に冬の運動不足に備え、積極的に運動をして足腰を鍛えていただければと思います。雪の季節を安全に楽しく過ごすためにもよろしくお願いたします。

最後に今回皆様方にお詫びを申し上げなければなりません。10月に当院の職員2名が酒気帯び運転で検挙されました。公務員でかつ医療職という、市民の皆様にとって安心と安全をもたらす立場であるものとしてはあってはならぬことであり、誠に大きな責任を感じております。今後、市民の皆様への信頼回復に努め、飲酒運転を決して許さない職場環境を作っていく所存です。



市立扇田病院  
院長  
おお 大 本 直 樹

早いもので今年も残すところ約1か月になりました。平成30年を振り返ってみると扇田病院はとても忙しい1年でした。常勤医5人という最小限の体制で臨みましたが、近隣医療機関の診療体制縮小などの影響で入院患者さんは例年よりも多く、外来もたくさんさんの新患が受診されました。午前で終わるはずの外来は連日午後2時頃まで延長し、予約時間に来ても2時間もお待ちいただくような状態で大変心苦しく思っています。医師の偏在や地域格差問題については、色々検討されているものの具体的な効果は未だ表れず、現場任せの状態が続いています。

昨年10月の衆院選で最大1・98倍の1票の格差が名古屋高裁で「違憲状態」と判断されましたが、医療の地域格差はそれをはるかに超えています。災害時でも整然と列を作って順番を待つ日本人の民度の高さは世界中から称賛されていますが、このように大きな社会問題については、変化するのを待つばかりでなく積極的に声をあげていくべきではないかと思えます。少数の意見（地方の意見）が通りにくい社会構造において、国民（市民）の声が世論を動かし、制度を変える大きな原動力になると思います。

## 総合病院職員の酒気帯び運転について

本年10月、総合病院医師及び技師が、それぞれ酒気帯び運転の疑いで検挙されました。公務員として市民の信頼を著しく損ね、加えて市民の健康と安全を守るべき病院職員がこのような違反をしたことに対して、深くお詫び申し上げます。

病院では、改めて全職員に対し、公務員としての立場を十分に自覚し、今後このようなことを起こさぬよう、綱紀粛正を徹底して参ります。

## 総合病院 新任医師紹介

呼吸器・循環器内科



みうら なおたけ  
**三浦 尚武** 先生  
地域のみなさまのために働きたいと思っております。よろしくお願いたします。

整形外科



ささき えいじ  
**佐々木 英嗣** 先生  
地域の皆さんのお役に立てるよう、がんばります。

産婦人科



ひらかわ たけお  
**平川 威夫** 先生  
頑張ります！

泌尿器科



とくい のりこ  
**得居 範子** 先生  
地域医療に貢献できるような頑張ります。よろしくお願いたします。

## かかりつけ医制度について

国は、医療政策により医療機関の機能分担を明確にし、症状の軽い患者さん並びに安定した慢性期の患者さんは地域の医療機関に診ていただく『かかりつけ医制度』を日本医師会と共に推進しております。

『かかりつけ医』とは、あなたやご家族の病気のことについて、親身になってくれるお医者さんのことです。現在治療中の病気やこれまでにかかった病気、現在服用中の薬等について、普段から『かかりつけ医』に相談していれば、いざというときに適切な判断をくだし、最適な診療を行ってくれます。また、あなたのご家族の健康、体のことについても気軽に相談のしてくれるため、普段からの健康増進にも役立ちます。

### かかりつけ医の役割

患者さんがまず診療を受ける身近な医師です。患者さんの病歴、家族歴、アレルギー等健康状態を管理します。また、症状が重い場合や専門の治療が必要な場合は当院などの中核病院に紹介していただけます。

普段から健康上のどんなことでも、気軽に相談できる存在です。

### かかりつけ医をもつことのメリット

- ①**症状に応じた最適な医療が受けられます**  
軽い症状から専門性を要する症状まで、かかりつけ医が最適な治療を行います。また、症状にあわせた適切な専門医への紹介が受けられます。
- ②**ご家族が急病のときの指示を仰ぐことができます**  
突然の体の異変、緊急の事態が発生した場合でも安心して判断を任せることができます。

当院では『かかりつけ医』の先生方と連携をとり、ご紹介いただいた患者さんの症状にあわせた適切な治療を行います。また、『かかりつけ医』では実施することが困難な精密な検査や高度な医療機器による治療を行います。

当院での診療などの後、安定すれば『かかりつけ医』で引き続き診療を行います。また、病状に変化が起きて重症化したとき、手術が必要になったとき、または入院治療が必要になったときには、当院で診療させていただきます。

是非この『かかりつけ医制度』を活用していただければと思います。

## 市立病院は、かかりつけ医の先生方と共に 市民の健康・医療を支えます。



総合病院は入院を必要とする患者さん、症状が重くなったり、急変した患者さんを受け入れる病院として、また扇田病院は療養期を中心とした患者さんの入院受け入れや、地域の在宅療養を支える病院として、ともにかかりつけ医制度と合わせ大館市ひいては二次医療圏を支えています。

かかりつけ医と連携を行うことについて、質問が寄せられていますので説明いたします。

### Q1 なぜかかりつけ医との連携をするのですか？

**A1** 国の政策という理由の他に、大館・県北の医師不足、診療科の偏在（かたより）が顕著で、中央との格差が著しいことも原因です。地域の医療機関と役割分担をしなければ地域医療を維持・存続することが困難だからです。

### Q2 かかりつけ医とどのように連携を行っているのですか？

**A2** 国の機能分担政策をカバーする有効な方法が、医療機関同士や医療・介護・福祉・行政との連携です。そして、医療機関同士の連携で最も重要なツールが「紹介状（診療情報提供書）」です。またこの他にも、「二人主治医制」や「地域連携パス」、ハートフルネットなど、スムーズに連携する様々なしくみができつつあります。また、このたび大館市に「地域包括ケア推進会議」が設置されており、「連携」はこれからの社会保障政策を支えるキーワードと言えます。

## 鹿角地域からの産科受け入れ体制が整いました

総合病院では大館・鹿角地域の産科集約化にともない、10月1日より鹿角地域からの出産の受け入れを始めています。受け入れ体制については以下のとおり整備しております。

大館のかたはもちろんのこと、鹿角地域のかたも安心して出産できるよう、さらに受け入れ体制を充実していきたいと考えております。

### 現在の整備状況

- 分娩室の増設
- 産婦人科医師、助産師の増員
- 外来診療スペースの拡充



分娩室

## 入院患者さんへの面会の制限について

現在、インフルエンザやノロウイルス感染症の流行期に入っています。当院では、流行が終息するまでの間（来年春頃）、入院中の患者さんへの感染を防ぐため、面会を制限させていただきます。

面会は、原則としてご家族のみとし、面会中はマスクの着用をお願いします。特別に事情がある場合は、主治医等に相談してください。

また、お子さんや発熱（37.0℃以上）、のどの痛み、鼻水、吐き気・嘔吐、下痢などの症状があるかた、所属する学校や職場、家庭内でインフルエンザやノロウイルスが流行しているかたは、面会をご遠慮していただくようご協力をお願いいたします。



## 「糖尿病患者会(桂糖会)」

総合病院には糖尿病患者さんの会「桂糖会」があります。1年に3回の糖尿病教室（院内教室2回、院外教室1回）を開催しており、内分泌・代謝・神経内科の医師による講話や、管理栄養士による食事会、患者さん同士の交流を行っています。次回の糖尿病教室は2月を予定しています。会員募集期間は毎年5～6月となっておりますが、非会員のかたでも参加可能ですので一緒に糖尿病について学んでみませんか？糖尿病教室の詳細は1月に院内に掲示予定となっております。

興味のあるかたはお気軽にお声がけください。

お問い合わせは栄養科までお願いします。



糖尿病教室の風景

## 委員会活動 「緩和ケア委員会」

総合病院の緩和ケア委員会は発足して今年度で11年目になります。「緩和ケア」とは、患者さんやご家族の不安やつらさを軽減し、希望を叶えるための援助を行うことです。患者さんの苦痛は身体的な苦痛や精神的な苦痛、経済面や仕事の問題といった社会的苦痛など、人によって様々ですが、一人ひとりに寄り添った支援を目指しています。

緩和ケア委員会のチームでの活動として、院内の外来・病棟にて回診や話し合いを実施し、患者さんやご家族が抱える苦痛の緩和を支援しています。患者さんの苦痛を早期に拾い上げ、緩和ケアにつなげることを目的として各種質問シートや問診票も活用しています。

また、医療従事者・介護従事者・地域住民を対象とした緩和ケアに関する研修会、「もっともっと知ろう緩和ケア」という小規模での講演会の実施など、地域の緩和ケアの啓発に努めています。

さらに、市民に対して緩和ケアのリーフレットを配布したり、大館・鹿角地域の緩和ケア関連情報がわかる「緩和ケアマップ」を作成し周知する体制を整えるなど、地域の緩和ケアの広報活動も行っています。

緩和ケア委員会では今後もこれらの活動を継続し、当院と地域の緩和ケア発展を目指して活動してまいります。



## きりたんぼまつり

# 「健康相談コーナー」本年度も開設



10月6日から8日までニプロハチ公ドームで開催された大館きりたんぼまつりに、昨年に引き続き総合病院職員による「健康相談コーナー」を開設しました。研修医、看護師及び事務職員を配置し、血圧測定や血管年齢測定、健康相談等を行いました。来場者は、3日間で294人となり、昨年約2.5倍のかたにご利用いただきました。

また、会場内で具合が悪くなったかたの応急処置などの対応にもあたりました。

# 扇田病院です!

## 新しいX線透視装置を導入しました

10年間使用してきたアナログX線透視装置をデジタル式の装置に更新しました。患者さんに安全で安心できるX線検査を提供し、これからも地域医療に貢献してまいります。

### 特徴

#### ①低線量・高画質

X線検出器が今までのアナログ撮像管からフラットパネルディテクタ(デジタル半導体検出器)に変わりました。これにより低線量で高画質なX線検査が可能になりました。

#### ②診断機能向上

フラットパネルディテクタは大型のため一度で腹部全体を撮影できます。また視野の拡大・縮小の切り替えができるため診断機能が向上しました。

#### ③患者さんに優しい設計

フラットパネルディテクタは薄型のため撮影台を低い位置まで降ろすことができます。このためご高齢のかたでも容易に乗り降りができるようになりました。

#### ④安全で快適な操作性

消化管造影をはじめ、嚥下造影・内視鏡・血管造影などの検査の操作性に優れ、当院でのX線検査を安全で快適に実施できます。



## 消防訓練を実施しました

10月29日に扇田病院で消防訓練を行いました。

今回は2階デイルームが火元という想定で、火災の認知から院内での情報伝達や消防署への通報までを行う「通報訓練」、模擬患者を誘導する「避難誘導訓練」、誘導後の院内を巡視する「警備訓練」を一連の流れで訓練しました。

約40人の病院職員が訓練に参加し、火災報知器や消防設備の動作確認と併せ、火災時の行動を再確認しました。

災害発生時に職員が迅速で適切に対応できるよう、今後も定期的に訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります。



## 外来診療費着服事件の対応状況について

昨年6月に発覚した外来診療費着服事件について、患者さんをはじめ、市民の皆様にご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

第25号(2018年8月号)で報告しました後の事件の対応状況について、ご報告いたします。

損害賠償請求している2社のうち、株式会社ニチイ学館とは和解が成立し、平成30年9月28日に損害賠償金を受領し解決しました。

一方の東北ビル管財株式会社とは、両者の主張、反論を述べる弁論準備手続が2か月に1回ほどの割合で開かれています。

# 外来診療のご案内

医師の都合や手術などのため、休診や受付時間を変更する場合があります。

～総合病院～

<b>受付時間</b>	<b>新患 午前 8:30～11:00</b>	<b>再来 午前 7:30～11:00</b>
-------------	-------------------------	-------------------------

特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名		曜日	月	火	水	木	金	備考	
呼吸器・循環器内科	呼吸器		受診の際はお問い合わせください					新患は原則として紹介状が必要です。現在、呼吸器内科では外来患者の受付を制限しています。受診の際はあらかじめお問い合わせください。	
	循環器	新患	9:30まで	9:30まで	休診	休診	9:30まで		
		再来							
消化器・血液・腫瘍内科								新患は原則として紹介状が必要です。	
内分泌・代謝神経内科	新患	10:30まで	甲状腺診療	10:30まで	10:30まで	甲状腺診療	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。神経内科は原則として再来予約のみの受付となります。(午後診療)※1
	再来								
小児科									
神経精神科	新患		予約のみ	予約のみ	休診	休診	休診	新患は原則として紹介状が必要です。	
	再来								
外科									
呼吸器外科	新患		予約のみ	10:00まで	予約のみ	予約のみ	10:00まで		
	再来								
産婦人科									
眼科	新患		9:30まで	9:30まで	9:30まで	9:30まで	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。	
	再来								
耳鼻咽喉科									
整形外科			10:00まで (火曜日は再来のみ)					新患は原則として紹介状が必要です。専門外来は予約制。	
泌尿器科	新患		休診	休診	予約のみ		休診	新患は原則として紹介状が必要です。	
	再来		予約のみ						
皮膚科					休診	再来予約のみ		木は再来予約のみの受付となります。	
脳神経外科	新患		10:30まで					新患は原則として紹介状が必要です。	
	再来								
放射線科			予約のみ	予約のみ	予約のみ		予約のみ	新患は木のみで紹介状が必要です。	
歯科口腔外科・矯正歯科								新患は原則として紹介状が必要です。	

上記の表は11月中旬の情報をもとに作成していますが、診療体制の変更に伴い受付時間などが変更となる場合がありますのであらかじめご了承願います。また、変更があった場合はホームページへ掲載いたしますのでそちらをご覧ください。

- ◎新患はできるだけ紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いしています。
- ◎この表における紹介状とは、医療機関から発行される診療情報提供書のことを指します。
- ◎新患で紹介状を持参されない場合、初診時の保険外併用療養費として、1,620円を負担していただいておりますのでご了承願います。
- ※1 神経内科の新患は原則受付しておりませんが、受診希望のかたは地域連携室までご相談ください。

～扇田病院～

科名		曜日	月	火	水	木	金	備考
			受付時間 午前8:30～11:00 眼科のみ下記のとおり					
内科・外科			(夕やけ)		(夕やけ)		(夕やけ)	午後：急患のみ 夕やけ診療(月・水・金)：午後5:00～6:30 小学生以上のかた
整形外科			休診	休診	休診	休診		
耳鼻咽喉科			休診	休診	休診	休診		
眼科			午前10:00～12:00、午後1:00～2:00 ※原則第1、第3土曜日					詳細は扇田病院ホームページ または電話でご確認ください。

# 新たな認定看護師が誕生しました！

総合病院には、特定の分野で専門的知識や技能を身につけた「認定看護師」が10人勤務しています。

今年度、糠塚拓道看護師が新たに「救急看護認定看護師」の資格を取得し、当院11人目の認定看護師が誕生しました。

救急看護認定看護師ぬがづかひろみちの糠塚拓道です。救急外来に勤務しています。

救急医療では、「防ぎえた死“Preventable Death”」を回避することが最大の使命です。救急看護認定看護師として、①専門的知識を生かした観察と判断による看護、②救急看護のレベルアップを図るための院内教育活動、③救急医療に携わる救急隊や地域の医師との連携、この3つを強化して、地域住民の救急医療ニーズに応えていきたいと思っています。



## 紹介 します

### 臨床検査科



臨床検査科は大きく分けると、患者さんの検体（血液・尿・便・喀痰など）を検査する検体検査部門と、患者さんの身体に機器を当てたり装着したりすることで状態を把握する、生理検査部門の2つで構成されています。

どちらの部門も高層棟3階にあり、臨床検査技師、看護師など約30名が働いています。患者さんが直接目にするのができるのは、採血・採尿受付、または生理検査受付ですが、その奥ではたくさんの機器が稼働しており、365日24時間、検査に対応しています。

検体検査は、貴重な検体を正確かつ迅速に検査することで、医療現場を支えており、生理検査は、患者さんへの負担をなるべく少なく検査することを心がけています。

検査以外にも、院内の委員会活動、その他のサポート的業務（不妊治療の補助や糖尿病指導など）、学会や研修会等への参加を通して、医療の質の向上に貢献しています。

地域の中核病院の検査室として、常に個々のスキルアップを目指し、高品質な医療を提供することを目標にしていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 編集 後記

朝晩の冷え込みが日ごとにきびしくなってきますが、こんな季節は温泉が恋しくなります。私は学生時代からの大の温泉ファンなのですが、特に好きなのが小さな共同浴場です。地域の生活に密着している感じも良いですし、何よりお湯の鮮度が素晴らしいです。小さめの浴槽に惜しげもなく源泉が注がれており、お湯に浸かると自然とため息が漏れてきます。先日、某有名避暑地と同じ名を冠する温泉に行ってみました。微硫黄臭の香る、とろみのあるお湯が贅沢に掛け流しとなっており、至福のひと時でした。

（編集委員長 重藤 龍比古）